

デイリー・ジーザス・ニュース #220

イエスはラザロを死から蘇らせる 奇跡その30：イエスがラザロを死から蘇らせる ヨハネ11:38-44

38 イエスは墓に来ると、再び深い感動を覚えました。それは洞窟で、入り口には石が横たわっていました。39 「**石を取り除いて**」 彼は命令した。

「しかし主よ」と、死者の妹のマルタは言った。「もう四日も経っているので、もうひどい臭いがするのです。」

40 そこでイエスは言われた。 「**信じるなら神の栄光を見るだろうと、私はあなたに言ったではないか。**」

41 そこで彼らは石を取り除きました。

するとイエスは目を上げて言われた。 「**父よ、わたしの願いを聞いてくださって感謝します。42わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っていました。しかし、ここにいる人々のために、あなたがわたしを遣わされたことを彼らに信じさせるために、わたしはこう言ったのです。**」

43 イエスはこう言ってから、大声で叫ばれた。 「**ラザロよ、今すぐ出て来いと命じる！**」

44 死人は手足にまだ亜麻布が巻かれ、顔にも布が巻かれたまま出てきました。

イエスは彼らに命じた。 「**彼を解放して行かせなさい。**」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレム近郊のベタニア
タイムライン	3月 (38月)
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	B. イエスはラザロを死から蘇らせる
タイトル	5. 奇跡その30：イエスはラザロを死から蘇らせる

コメント：

デイリー・ジーザス・ニュース #220

の30番目の奇跡についての感動的な物語の中で、いくつかの重要な点を指摘しています。まず第一に、この奇跡に示された超自然的な力の大きさについてです。39節と44節では、ラザロを描写する際に「死んだ人」という表現が2度使われています。これはヨハネのギリシャ語において特に力強い表現で、「死んだ」という動詞に完了形を用いています。言い換えれば、ラザロは永久に死んでいたのです。単なる「気絶」、つまり死と間違われた一時的な意識喪失ではなかったのです。

腐敗した死体が生み出す悪臭への言及は、この死体の死が取り返しのつかない永続性を持つことをさらに強調しています。極めて稀ではありますが、20分から30分間呼吸をしていない人が蘇生することもあります。これは「臨死体験」です。ヨハネが強調したのは、ラザロはそのような状態ではなかったということです。彼は真に、完全に、そして永久に死んでおり、腐敗状態にあったのです。したがって、彼の復活はイエスの宣教における最大の物理的奇跡でした。

ヨハネはまた、奇跡のクライマックスにおいて、イエスの予知能力を再び指摘しています。イエスは祈り、祈りを既に聞いてくださった父に感謝しました。つまり、ラザロが末期の病にあると初めて聞いた時、イエスは祈り、ラザロが復活するという確信を得ていたのです。それは既に決まっていたのです。ラザロの復活は、ベタニアで起こる数日前、イエスがまだペレアにいた時に祈りの中で実現したのです。

イエスは、受難週の間に弟子たちに教えることになる祈りの原則を例証していました。「祈りの中で求めることは、すでに与えられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」マルコ11章24節

「埋葬衣」の役割にも特別な注意を払いました。ラザロは血肉の体で復活したため、約70ポンドの布と埋葬用の香油に包まれたままでした。彼はこれらの布の「墓」からすぐに解放されなければなりませんでした。さもなければ、復活直後に再び窒息して死んでいたでしょう。

これは、イエス自身の復活と重要な対比を成すものでした。イエスの復活は全く新しい形の「霊的体」として起こりました。この新しい種類の体は、私たちの肉体を支配する物理法則の影響を受けません。イエスの復活した体は埋葬衣を通り抜け、巻かれたまま墓の中に落ちました。これは、誰もその布を解いていなかつたことの明確な証拠です。ラザロの復活した体と状況、そしてイエスの霊的体との対比は、ヨハネが福音書の中で強調すべき重要な点でした。

最後に、ヨハネはラザロの復活を用いて、イエスの復活をはつきりと示しました。イエスの約30の奇跡を記録する共観福音書とは異なり、ヨハネは物語を7つの、特に重要なしるしとなる奇跡に絞りました。ラザロの復活は7つの奇跡の中で最後であり、クライマックスでした。なぜなら、それはイエス自身の復活を予示するものだったからです。「わたしは復活であり、命である」と言われた方は、ラザロを復活させる力を持っていましたことは明らかです。なぜなら、ラザロは「命」であり、無から全宇宙を創造した神の永遠の命そのものだったからです（ヨハネ1:3）。

ラザロの復活を振り返ってみると、それは必然だったことがわかります。それは避けられないことでした。神の御子イエスにおける神の栄光の啓示は、これ以外の方法で終わることはあり得ませんでした。実際、イエスが墓の中で「ラザロ」と呼びかけ始めたのは良いことでした。もしそうしていなかつたら、イエスが「出て来なさい！」と呼びかけた瞬間、世界中のすべての死者が同時に墓から出てきたことでしょう。

ディリー・ジーザス・ニュース #220

応用：

イエスが何を言われても、それは必ず起こります。あなたが万物の全能の創造主である限り、それは同じです。ラザロの復活は、この真理を輝かしく示しています。

ラザロが死ぬと、姉妹たちはイエスの約束を諦めました。悪臭を放ち、腐敗していく死体は、イエスの約束が成就するには遅すぎることを証明しているかのようでした。しかし真実は、神が約束されたことを行うのに遅すぎるということはないということです。決して！

あなたにとって、イエスのどんな約束や命令が状況的に不可能に思えますか？

神は嘘つきではなく、神の言葉はすべて真実であるということを、今日、どのように自分に思い出せることができますか。